

蚊の発生防止

蚊の発生は、刺されることの不快感だけでなく様々な感染症を媒介する恐れもあります。日本では、かつて流行のあった日本脳炎などは激減していますが、現在も海外では蚊が媒介する様々な感染症が発生しています。平成26年夏には、都内で蚊を媒介したデング熱の発生が見られました。これら感染症の発生を防ぐには、日ごろからの蚊の発生防止が大切です。



ヒトスジシマカ(成虫)

駆除よりも発生を防止することが重要です

蚊の防除は、むやみに殺虫剤を噴霧して駆除さえすればよいというものではありません。殺虫剤を使用する場合は、使用上の注意をよく理解したうえで使用方法をしっかりと守って使いましょう。蚊の幼虫(ボウフラ)は成虫と生息場所や生態が異なります。そのため一般的なハエ・蚊用殺虫剤の多くはボウフラへの効果が期待できません。



蚊の幼虫(ボウフラ 体長約5mm)

ボウフラは水溜まりに生息していて、これが生き残っていると、数日でまた蚊が発生してしまいます。蚊の発生防止にはボウフラ対策が重要です。

このチラシ裏面に、簡単にできる対策をまとめてありますのでご覧ください。



雨水マス

区では現在、環境や健康への影響などから、平時に蚊(成虫)の駆除を目的とした殺虫剤の散布は行っておりません。蚊の発生防止のため、夏季に区道の雨水マスに人体への影響がほとんどないとされる薬剤(昆虫成長阻害剤・錠剤)を定期的に投入しています。蚊の幼虫(ボウフラ)の成長を妨げて、蚊の発生を抑制します。

薬剤に頼らない蚊の防除方法

蚊を発生させない

～ 幼虫（ボウフラ）対策～

蚊は成虫と幼虫で生息場所が違います。蚊は庭や物陰にあるほんの小さな水溜りに卵を産み付け、幼虫（ボウフラ）は水の中で生育します。

ボウフラは水がなければ生きられません。植木鉢の受け皿、バケツ、空き瓶、空き缶、コンビニ弁当などの空き容器、落ち葉で詰まってしまった雨トイ、放置されたタイヤなどに溜まった水を捨てましょう。

防火水槽など水を貯めておくものには、しっかりと蓋をするか防虫網を掛け、蚊が産卵できないようにしておきましょう。

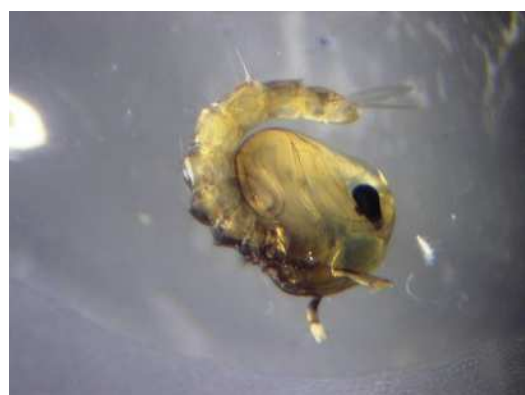
蚊を寄せつけない

～ 成虫対策～

蚊は草木の陰や、庭木が密集して枝が込み合っているところに寄ってきます。窓や戸を閉めて蚊が家の中へ侵入するのを防ぐのはもちろんですが、家の周りの草刈や庭木の枝を剪定して、風通しを良くして蚊が潜みづらくしましょう。



ボウフラ(終齢幼虫 体長約 5mm)



オニボウフラ(このあと羽化して蚊になる)

蚊の幼虫（ボウフラ）はこんなところに生息しています

一週間以上水が溜まったままになっていると、次の世代の蚊が発生します。溜まり水は捨てましょう。

